

# ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.36  
山部聡、健康  
道場入門

「頼もうー！」

午前7時。一大決心を胸に健康道場の門前に立つ山部聡。道場では朝5時に起きお勤めを済ませた和尚と御手洗透が朝粥をすすっていた。

「また、迷える子羊が来たようじゃのう。」和尚が顔色を変えず無機質に言った。

「入門者ですか。ちょっと見てきます。」御手洗透が興味本位に、しかし先輩面して門前に向かった。

「何用でござるか。」

「私、山部聡と申します。御道場が生活習慣病に悩んでいる者の立ち直るきっかけを与えてくれる場所と伝え聞き参りました。」

御手洗透は弟弟子ができることにこみ上げる笑みを必死でこらえているが、傍で見ていると吹き出すほど真面目な顔をして答えた。

「ここは生活習慣病の怖さを知る者が、生活習慣を克服するために己

を見直す道場なり。御主は、その心構えができていると申すか？」

「私は健診で、高血圧を指摘されながらも、つい自覚症状がないために治療を後回しにしていました。そのために脳梗塞による高次機能障害が残りました。もし時計を逆さ方向に回すことができるなら、自分の生活習慣を見直そうと思い参りました。」

「よう言うた。ならば和尚に面通そう。着いて参れ。」山部聡は短い参道を半信半疑の気持ちを抱えながら御手洗透の後を追った。

「和尚、入門希望者です。」

「名は何と申す。」

「山部聡です。」

「お主はここで何を学びたい。」

「私は高血圧であるにもかかわらず、症状がなかったために放置したため、脳梗塞による高次機能障害が残ってしまいました。」

「それだけか？」

「はっ？」

「わしの目を節穴と思っておるのか？タバコも吸っておったろう。」

「いえ、スーパーライトを1日10本までと決めていましたから健康には害がないかと…」

「喝ーっ！」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一